

「中国・上海 ～現地校との剣道交流を通して～」

H. 16 派遣 上海日本人学校 井上葉子
(米子市立後藤ヶ丘中学校)

私たち日本人にとっても記憶に新しいと思いますが、平成17年度始め、中国で大規模な反日運動が起こりました。大規模といっても生活にはなんら支障はありませんでしたが、これからの日中関係を考える上でも上海に暮らす日本人の間では非常に注視される出来事でした。今回は、上海にある日本人学校の紹介をしたので、今回は最近よく取りざたされる日中間の歴史認識に関してや、現地校を訪問して自分なりに考えたこと等を紹介しようと思います。

①現地校を訪問して

17年11月に、上海日本人学校と上虹中学の「中日師生文化活動」に参加できる機会に恵まれました。生徒の年齢は日中どちらも中学2年生で、お互いの学校の先生が入れ替わって授業をするものです。私は、同僚の剣道の達人の先生の通訳兼補助として、自分も剣道着に着替えて参加することができました。私達は始めて、日本の文化である剣道を中国の生徒に教える機会に恵まれることとなりました。はじめは時期が時期だけに、剣道というと日本帝国主義を彷彿とさせ、受け入れられないのではないかと心配もしましたが、今の中学生は、武道の1つとして自然に受け入れ、取り組んでくれたようです。大きな声での発生や、素振りなどとても一生懸命に参加してくれました。始める前は、私たちの剣道着姿が珍しいのか、大変大きな人だかりができました。最初に2人で面をつけて打ち込みをすると、とても喜んでくれましたが、今回約1時間の交流内容でしたので、中国の生徒たちにはプラスチックの水道管を配って、足裁きと素振りのみを一緒にやってみるとい授業になりました。

授業後の感想を次にのせますが、今の中学生の日本人観がよく見て取れる気がします。

②生徒の感想から（私が勝手に訳したものです）

周さん「今日習った剣道の稽古はすごく楽しかったです。日本文化に触れることも少ないけど、剣道の稽古は楽しかったです。水道管を剣のかわりに使ったけど、私はまじめに授業を受けました。剣道の稽古で特に好きなのは、大声をあげて、ぶん！と竹刀を振るところです。私は小さい頃からおしとやかな方ではなく、体育が大好きです。中国の武術も少し習ったことがあります。でも日本の剣道は本当に今日が初めて。剣道を習ったら私は急に日本の文化もこんなに面白いんだって思いました。前はあんまり日本人が好きじゃなかったです。昔すごく嫌な歴史があったからです。でも2度の日本人との交流会で私はだんだんと日本人を憎まなくなりました。だって出会った日本の友達はみんな本当にいい人たちだから。」

金キくん「今日僕は剣道の稽古をして、剣道の基本動作を学びました。小畑先生は竹刀で攻撃する動作を見せてくれましたが、その動作はすごくきれいだと思いました。あと剣道は練習の時に大声で叫ぶことも知りました。今日は本当に面白かった。小畑先生と井上先生は演技をして見せてくれて、僕は本当に面白かった。」

金インさん「今日の午後、グラウンドで中日師生文化活動の開幕式が行われた。何分かつたって、すぐに活動場所へ移動した。私はグラウンドで剣道を行った。先生はとてもまじ

めに私たちに剣道を教えてくれた。先生は真心こめて力を尽くして教えてくれた。テレビの上で見てきた日本人は、あれほど残忍でとんでもないのに、彼らは友好的で、とても善良だった。ただし日本が私たちに行った侵略については、私達は気楽に考えることはできない。日本国民と中国国民の友誼は、長い間ずっと続いてきたけれど、私たちはあらゆる傷害を忘れることはできない。でもやっぱり私たち両国の交流は、つづいていくと思う。」

③中国の中学生と接してみても

中国で暮らしてみると、結構抗日のテレビドラマを見かけます。DVDなどもたくさん売られています。そして日中戦争の歴史で大きな出来事があった所には、大きくて近代的な博物館があり、学生がひっきりなしに訪問している姿があります。そうやって歴史を忘れないようにする態度はとても大切だと思うのですが、幼い頃からそういったものを見てきた子供達にとっては、やはり残忍でとんでもないのが日本人なのだ、というそれだけの印象が残ってしまうこともあるようです。今回、たくさんの子供達が、実際に日本人にあってみて、日本人観を変えたというような感想をたくさんもらいました。やはり人と人との交流が1番の理解につながるものと思いました。

付け加えると、中国での近代史教育では、日清日露の敗北が日本の侵略と清朝の無能さ、当時の中国の遅れによるものと学習されています。そして、現代史については日本の侵略に抵抗する形の中日戦争であり、日本の帝国主義と日本の侵略に対抗する抗日戦争の過程で勢力を伸ばして、最終的に政権をとった共産党の政策の正しさを正当化する内容となっています。近代史と現代史を通じて他国の侵略に対して挙国一致で戦った中国人の、愛国主義を学習するという点を重視しているのです。どうしても政治と歴史教育が密接となる中国の事情も理解しながら、日本としてももう少し近現代史に注目して冷静で共通に認識できる事実をお互い探り出していければいいなと思いました。



④親日家を増やす日本のアニメ

平成17年の20代の意識調査「あなたの嫌いな国は？」という質問のトップが、中国だったそうです。これは年度当初の出来事が関係しているのかもしれませんが。ほっておけば日本でこのような状況が進んでいきそうですが、距離も近い国なので、非常にもったいない気もしています。このまま歩み寄りなしに双方が双方の考え方のままいくと、若い世代には考えてもらう時間を与えないままその空気が受け継がれ、経済では熱い交流でも心情面で疎遠になって行きそうで残念です。

ですが、こんなことも耳にしました。最近の中国の若者、特に高校生位は、男女を問わず親日派が多いそうです。その大きな理由に日本のアニメを見て育ったというのがあるそうです。確かに、上海の街の至る所に日本のアニメに関係するお店があり、そこに通っている若い人達を目にします。アニメを見る中で日本文化への理解や日本人のものの考え方などの理解も深まることだと思います。現地校の掲示板には、日本アニメの模写作品などが展示されていたり、キャラクターのマスコットをかばんにつけている子もたくさんいました。こういったことも考えると、日中関係の今後の希望が見えてくる気がします。今後は実際に中国の中学生と日本の中学生の直接の交流活動も予定されているので、またお知らせしたいと思います。